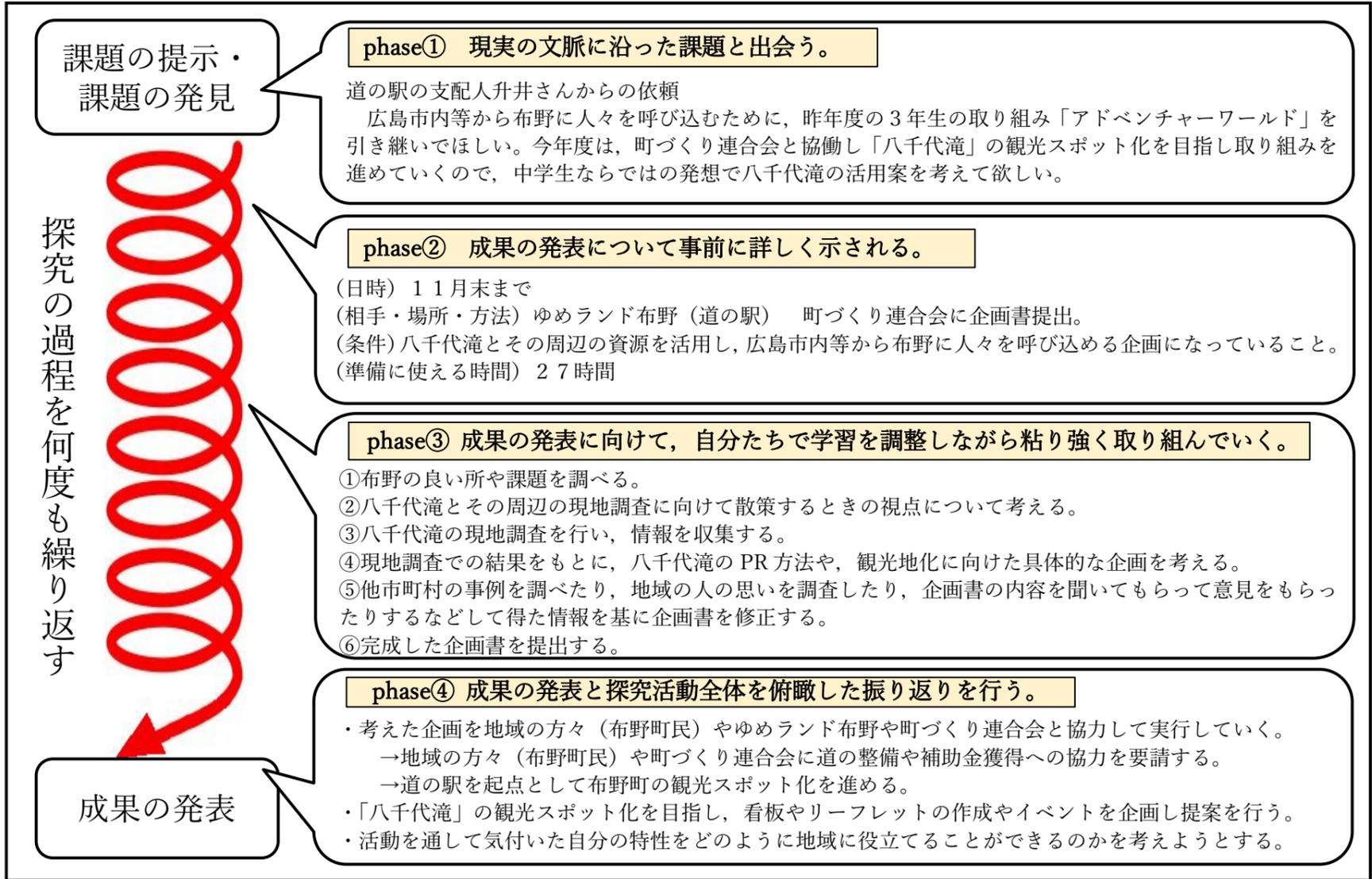


1. 探究のスパイラル



2. 実際の活動の流れ

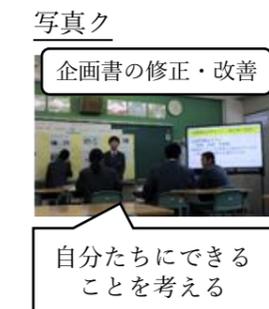
phase①では、生徒たちは、布野町の現状を分析し少子高齢化や人口減少が課題であるということがわかった。そこで観光地を作り、人を呼びたいと考えた。この課題を解決するために活用できる資源が布野町にあるのか調査するために、道の駅の支配人である升井淳さんと一緒に布野町のフィールドワークを行う。フィールドワーク後、豊かな自然をPRすることで地域活性化を図っていきたいと考え、八千代滝を整備するために、地域の大人たちの協力を得ることを目標とした。

phase②では、道の駅付近にある「八千代滝」を観光地化する企画を考え、布野町町づくり連合会に提案するための活動計画を立てた。

phase③では、考えた企画を提案した。提案会には布野町まちづくり連合会の池上会長、二本木事務局長、道の駅支配人の升井さん、4つの区長さんと地域の企業である藤原産業の藤原さんが参加されており、布野町民が「八千代滝」をどれくらい知っているか調べてほしいという依頼を受けた。生徒たちは文化祭や布野ふるさと祭りで企画提案やPRをしながらアンケート調査を実施した。その後、有志の方と八千代滝までの道を整備した。整備活動を行っていく上で、危険箇所がある。看板で情報を伝える必要があるといった、現地の課題点を見出していった。

phase④では、布野支所長の才田さんに企画の提案と現状報告を行い、いただいた意見をもとに、これから自分たちができることを考え企画の修正を行った。現在は、イベントをふまえた八千代滝の運用、整備するための資金集めのとしてのクラウドファンディング、募金活動、看板のデザインなどを他教科と連携しながら進めている。次の学年では、地域の産業と関連させ実現可能性を考察させていく。

3. 活動の様子



4. 成果と課題

成果として、生徒たちが自分たちで企画を考え提案していくことで、積極的に地域の方と交流することができ調整力を高めることができたことがあげられる。また、学校と地域が協働して活動を行うことができた。

課題としては、教科の学びとの連携である。例えば、生徒たちが考えた地域活性化案は費用対効果が十分検討できていないため、社会科の学びと関連付けることで、さらに学びを深めていくことができる。今後は、教科の学びを探究活動に生かしつつ、自分たちにできることに焦点を向け、活動を進めていく。